

連携・協働のカ・タ・チ

令和4年1月6日発行 福島県教育庁会津教育事務所



当事者意識を高める コミュニティ・スクール運営の工夫

＝ 熱塩加納地区学校運営協議会の取組〈その2〉 ＝

前号に続き、熱塩加納地区学校運営協議会（以下、熱塩加納地区CS）の取組です。今号では、喜多方市立加納小学校（以下、加納小）で行われた「第3回学校運営協議会」（令和3年12月17日開催）における「熟議」の様子について紹介します。

ここに注目👉 教職員の“熟議参加”

〈熟議の課題〉 「もっと元気にあいさつができるようにしたい」

1 加納小学校の課題と熟議の仕方の説明（校長先生から）

始めに、加納小の伊達明美校長先生から、加納小の課題の一つとなっている、子どもたちの「あいさつ」についてお話がありました。

その際、「登校時の子どもたちのあいさつの様子」（録画）をCS委員の皆様に見聴していただきました。

子どもたちが、さらに元気にあいさつができるようにするためにどうしたらよいか意見をいただきたいと、熟議の目的や進め方について説明がありました。



【あいさつの様子（録画）を見聴するCS委員】

2 小グループによる「熟議」（加納小の教職員参加）

5つの小グループに分かれ、加納小の教職員が各グループに入りCS委員と一緒に熟議を行いました。熱塩小と会北中の各校長先生（CS委員）と教頭先生も熟議に参加して、加納小の課題について、地域のみなさんと共に真剣に考えておられました。まさに“チーム熱塩加納”といった雰囲気でした。



【熱心に「熟議」に取り組むCS委員の皆さん】



3 全体での共有（各グループからの発表）

熟議で出された意見等について、各グループから発表してもらいました。



4 まとめ（校長先生から）

熟議を踏まえて、伊達明美校長先生が今後の取組の見通し等について話されました。



今回の「熟議」において皆様からいただいた御意見をもとに、加納小の子どもたちが、さらに元気にあいさつができるようにするための取組について、今後提案したいと思います。

←【まとめのお話をする加納小の伊達明美校長先生】



熱塩加納地区学校運営協議会の力・タ・チ

POINT
1

CS委員の“授業参加”

CS委員が授業を通して児童と直接関わる場を設けることで、CS委員と児童相互の交流を図っています。

POINT
2

教職員の“熟議参加”

学校運営協議会を勤務時間内に開催し、教職員が「熟議」に参加することで、CS委員と教職員の、互いに“顔の見える”関係づくりをしています。

POINT
3

学校運営協議会を3校のローテーションで開催

学校運営協議会を、熱塩加納地区3校（熱塩小、加納小、会北中）のローテーションで開催し、各校の課題を共有し、改善・解決を目指すなど、小・小及び小・中の連携を図っています。

